

PF-UA 第3回運営委員会議事録

日時：3月13日(水)16時45分～17時45分

場所：つくば国際会議場エポカル 小会議室 303

朝倉清高、雨宮慶幸、奥部真樹、木村正雄、桜井健次、佐々木 聡、高橋嘉夫、田
淵雅夫、田中信忠、植草秀裕、腰原伸也、篠原佑也、沼子千弥、藤森 淳、三木
邦夫、百生 敦、船守展正、伊藤健二、千田俊哉、村上洋一

1. はじめに、佐藤会長の挨拶があった。

2. 議題

1) 幹事報告

(a) 朝倉庶務幹事

- PF-UA の検討課題であった会費無料化による財政基盤の弱体化について、賛助会員の募集、物構研サイエンスフェスタでの公告・展示会収入により本年度は黒字になった。
 - 従来の PF シンポジウムから形態を変えて、本年度は物構研サイエンスフェスタが開催された。物構研が主催、PF-UA が共催、JPARC（中間子・中性子）が協賛という形をとった。これからも、他の UA と協力して物構研サイエンスフェスタを盛り上げてゆきたい。本年度は、PF-UA としては、学生賞の創設、賞状・副賞（盾）を提供、朝食の支援など、積極的に関わることができた。
 - ビームタイム削減に対する対応として、アンケートによる意見聴取を行い、それを7月31日にPF-UAからの要望という形で機構長へ提出し、9月5日にそれが文科省へ提出された。
 - PF-UA の行事として、「第1回 先進的観測技術研究会」を共催した。講師への謝金の支払いをサポートした。
また、物構研サイエンスフェスタにおいて、学生賞の創設、朝食の支給、企業展示を行った。
- (b) 教育小委員会（朝倉庶務幹事が説明代行）
- 院生奨励課題（E型）（仮称）の設置について説明があった。
 - 課題趣旨
PF を利用して学問的に高く評価できる研究を主体的に推進しようとする大

大学院生の研究を推進するための課題分類として設置する。基本的に G 型と同様の基準で審査を行う。ただし、申請者が主体的に申請していることを採択の前提とする。

採択課題を奨励するため、PF 側受入担当教員による指導・支援を提供するとともに、実験準備や PF 側教員との打ち合わせのための旅費を一定範囲で支給して、課題の推進を支援する。

本課題へ採択された課題の申請者とその内容を Web および PF シンポジウム等を通じて広報する

ビームタイム配分の際には、同じ評点の場合には、E 型課題を優先して配分する。また、空きビームタイムが生じた場合には優先して希望を聞く。

課題の有効期間は最長 3 年とする。採択者は、毎年 PF シンポジウムでポスター発表を行い、PF-PAC で評価する。「終了届」を提出することにより、期限以前に課題を終了することができる。

再申請も可能とする。

PF-UA の集いでの質疑応答、PAC での質疑応答であった内容をもとに、院生奨励課題の募集要領案ができあがった。今後は、運営委員会で承認、総会で承認を経た後、PAC・PF で検討し、2013 年 5 月の PF PAC で承認されれば、2013 年 11 月から募集する。

(c) 田中会計幹事

平成 24 年度 PF-UA 会計途中報告について説明があった。

(d) 腰原戦略・将来計画幹事

KEK ロードマップに関する意見集約を行った。また、BL4A の今後の運用について当該ユーザーグループと検討をはじめた。

(e) 沼子推薦・選挙管理担当幹事

来年度に会長選挙が開催されるとの説明があった。

2) 会則・細則の変更について

(a) 会則変更について

現行の「第 3 条 3 項 3. PF シンポジウム等の学術的会合の開催」について改正案として「3. PF が関係するシンポジウム等の学術的会合の開催」の案が出たが、現行のままで良いという結論になった。

現行：第5条 1. 本会およびPFの活動に関心を持つ者。

正会員の有効期間は 第1項正会員については、登録時からユーザ登録期間中（翌年度の4月30日）とし、第2項正会員については、登録後5年たった後の年度末とする。

改正案：1. 本会およびPFの活動に関心を持つ者。

正会員の有効期間は 第1項正会員については、登録時からユーザ登録期間中（翌年度の4月30日）とし、第2項正会員については、登録後5年たった後の年度末とする。また、情報共有の観点から、PF職員はオブザーバーとして本会に参加することができる。ただし、本規定はPF職員が第一項、第二項正会員として本会に参加することを妨げるものではない。

これらについて、総会で検討することになった。

(b) 細則

第6条2項 2. と、第9条について、細則の改正が承認された内容についてはPF-UAに掲載の細則を参照のこと。

3. 村上施設長から、KEKロードマップについて説明があった。

4. その他 質疑応答の際の運営委員会からのコメント

- 物構研サイエンスフェスタの企画・運営に対して、特にプログラムについて、
PF-UAがどのように関わるかは重要である。参加者も増加していて、PF-UAにとって、とても大切な行事なので、今後、より積極的に関与して行って欲しい。
- 施設に直結した議論ができる場として、物構研サイエンスフェスタに働きかけして欲しい。